



# アメリカ医療の トリセツ

取扱説明書



渡米してすぐの方も、長年こちらに住んでいる方も、米国医療に関することになると「よくわからない」「もっと知りたい」と感じている方も多いのではないのでしょうか。そこで、ミシガン大学の家庭医学科の先生方に医療に関する様々なトピックについてまとめていただき、連載でご紹介します。

Vol. 04

## 救急救命室 (ER) または、アーエージェント・ケアの利用の仕方

アメリカでは多くの場合個人でかかりつけ医 (PCP = primary care provider) を指定することが保険会社によって求められます。そのかかりつけ医を担うのが家庭医学科、一般内科、小児科、産婦人科です。保険プランには大きく分けるとHMO (Health Maintenance Organization) とPPO (Preferred Provider Organization) があり、PPOではかかりつけ医を設定する必要はないですが、かかりつけ医は決めて受診しておいた方がよいという内容を前回掲載させていただきました。かかりつけ医や、かかりつけ医以外の専門医の受診は基本的には予約が必要で、かかりつけ医以外の専門医はすぐには予約が取れない場合が多いのが一般的です。かかりつけ医では比較的予約は取りやすいですが、希望日に予約が取れないこともあります。電話やオンラインの連絡をしてアドバイスをもらえることもありますが、やはり医師の受診が必要になる場合も多いです。

では、すぐに診てほしい、もしくは、緊急時にはどうしたら良いのでしょうか。基本的にはかかりつけ医への相談が第一になってきますが、緊急の場合や週末や夜間など連絡が取れない場合などを状況に応じて述べたいと思います。

### 1. 救急救命室の受診の仕方

(Emergency room, ERやEmergency Department, EDなどと呼ばれます。以下ERと省略)

#### a) 救急車 (911) を呼んでERに搬送してもらう

まず、第一にどの程度緊急なのかの判断が難しいです。個別な判断が必要にはなりますが、**痙攣**、意識がない場合、手や足に力が入らないとか、体が動かない場合、激しい胸痛、強い呼吸苦、アナフィラキシー (重症のアレルギー反応で発疹、めまいやふらつき、呼吸苦、下痢などを伴うもの)、激しい腹痛などは、緊急に対応が必要です。緊急の場合はただちに911に電話して救急車を呼んでください。救急車が来て、救急隊員が診察をした後、搬送の必要がないと判断された場合は、搬送されないこともあります。救急隊員は、緊急の処置をすぐ開始できるようにトレーニングされており、点滴、呼吸の補助、心肺蘇生もできるので、緊急の場合は最も早く処置が始められるのは、救急車を呼ぶことです。保険のプランによっては救急搬送に費用が掛かる場合もありますが、緊急時はそうも言ってもらえないので、待てなさそうな場合は迷わず911に電話して救急車を呼んでERに搬送してもらってください。

#### b) ERに直接、車や徒歩で行く場合

では、救急車を呼ぶほどではなく、歩いたりもできるけれども、すぐに診てもらったほうが良いと感じるときはどうしたらよいでしょうか。例えば、ひどい腹痛や骨折

が疑われるような外傷などの場合は、近くの、もしくはかかりつけ医連携のERに直接、車や徒歩で受診することをお勧めします。その場合は事前の連絡やかかりつけ医からの紹介は不要です。普段からERに行くときはどこに行くか調べておくとい良いでしょう。

#### c) どうしたら良いかわからない場合

もし、救急車を呼ぶほどではないけれど、どの程度すぐ診察してもらったほうが良いかわからないときは、かかりつけ医のクリニックに電話してどうしたら良いかのアドバイスを受けることをお勧めします。診察時間内の場合、受付から看護師などの医療スタッフに電話を繋いでくれ、ERを受診すべきか、予約を取りかかりつけ医の受診で十分そうなのかをアドバイスしてくれます。また、夜間や週末も、医師が電話対応に当たっているクリニックが多いです。ただ、小さなクリニックだとそのようなサービスがない場合もありますので、事前に緊急時はどうしたら良いか確認しておくことをお勧めします。夜間や週末の緊急専用ラインは、普段の電話番号と異なる場合もあるので、普段から確認しておくといでしょう。ただ、それらはあくまで緊急専用ですし、かかりつけ医の意見は聞けないので、あまり緊急性がない内容については、診察時間内に連絡してください。

### 2. アーエージェント・ケアの受診の仕方

(Urgent Care または、UC)

アーエージェント・ケア (UC) とは軽症者向けで、予約なしで受診することのできる、夜間遅くや週末でも開いているクリニックです。街中を車で走っていると様々なアーエージェント・ケアをよく見かけたりすると思います。ただ、名前は似ていますが、上記のERとは全く異なり、重症者は診ることでできません。アーエージェント・ケアを受診して、「対応できない」としてそのままERに行くように言われることもあります。ERは詳しい検査をした後必要であれば、そのまま入院することができますが、アーエージェント・ケアは、CT検査などの専門的検査や点滴はできないことが多いです。また、かかりつけ医とは異なり、今までの経過などは記録にはなく、その後の経過を診たりせず、基本的にはその時の簡単な対処のみとなります。それでも、風邪、膀胱炎、中耳炎などの場合、すぐに診てくれるので、便利な時もあります。その場合は、アーエージェント・ケア受診後、数日以内にかかりつけ医を受診するように指示されます。

### 3. 入院について

入院についても患者さんから聞かれることがありますので、簡単に説明したいと思います。日本では、病院の外から医師の判断、もしくは患者さんの希望で直接入院することがありますが、アメリカ外来担当医が入院担当医でないかぎり、基本的にはそういうことはありません。外科

など手術をするような科の専門医が手術を予定しているために入院する場合やお産で入院する場合以外、入院が必要かどうかは、ERの医師が決めます。従ってアーエージェント・ケアやかかりつけ医のクリニックを受診して、入院の適応があると思われた場合でも、ERに受診して入院の適応を最終判断してもらう必要があるのです。

最後に、様々なERやアーエージェント・ケアに関連した例とその対処例を紹介します。

**例1.** 蜂のアナフィラキシーの既往があり、蜂に刺されてしまった。全身に発疹が出てきて、徐々に呼吸苦が出現してきた。エピペン (患者さんが携帯するアナフィラキシー用の注射薬) は手元にはない。

**対処▶** すぐに911に電話して救急車を呼んでください。救急隊が注射を打ち、改善し重症ではないと判断されると必ずしも搬送されるわけではありませんが、アナフィラキシー・ショックが疑われるので、迷わずに911に電話してください。

**例2.** 夜間に子供の熱が出た。かかりつけ医のクリニックは夜間で閉まっている。元気ではあるが、心配ですぐに診てほしい。

**対処▶** 元気そうで水分を取れていれば必ずしもすぐに受診する必要はありませんが、それでもすぐに診てほしいのであれば、近くのアーエージェント・ケアを受診すると良いでしょう。その受診の前にかかりつけ医の緊急専用ラインに連絡してアドバイスをもらっても良いと思います。緊急専用ラインではその後の受診の予約は取れませんが、予約を取る場合は次の日の朝一番にかかりつけ医に連絡して予約を取るか、もしくはかかりつけ医の看護師にアドバイスを聞いてみると良いです。

**例3.** もともと高血圧があり、胸痛が出現し、半日ほど続いている。

**対処▶** めまい、立ち眩み、呼吸苦、激しい胸痛でなければ救急車を呼ぶ必要はないかもしれませんが、胸痛は心配すべきです。心筋梗塞、肺塞栓、気胸など緊急を要する疾患かもしれません。その場合はアーエージェント・ケアではなく、ERに行った方が良いでしょう。緊急性がなさそうであれば、車ですぐにERに行ってください。その場合は自分で運転せずに誰か別の大人に連れて行ってもらうてください。迷った場合は、可能ならかかりつけ医のクリニックやその緊急専用ラインに連絡するなどしてアドバイスをもらっても良いでしょう。

以上、様々なパターンを説明してきましたが、普段からかかりつけ医に相談して、緊急時はどうしたら良いか、どんな選択肢があるのか、ER受診するならばどこがよいかなどを相談しておくことをお勧めします。



筆者プロフィール:  
医師 若井俊明 (わかいとしあき)

ミシガン大学医学部 家庭医学科助教授

弘前大学医学部卒業後、手稲溪仁会病院内科研修修了、University of Pittsburgh Medical Center Shadyside 家庭医療研修修了後より静岡家庭医養成プログラム指導医、健康会おおあさクリニック院長、2017年よりミシガン大学日本家庭健康プログラムで診療。現在、ミシガン大学家庭医療科リボニアヘルスセンターの外来で幅広い診療を行っている。